

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

高齢化に伴い、誰もが抗えない加齢を発症や増悪の危険因子とする不整脈や心不全など心臓血管疾患が増加しています。現在、日本は高齢化率が約 30%に達する世界有数の高齢国家であり、平均寿命の伸びとともに健康寿命の延伸は、社会保障の最たる目標の一つとなっています。

日常臨床で最も頻繁に遭遇する不整脈である心房細動や心室期外収縮は、動脈硬化疾患とともに脳卒中や心不全の直接的また間接的な原因となり、生命予後を悪化させ、健康寿命を短縮します。また、虚血性心疾患や肥大型心筋症・拡張型心筋症などの器質的心疾患に起因する慢性心不全は、さまざまな不整脈を合併し、突然死の危険性を高め、生活の質や生命予後をさらに悪化させます。さらに、少子化に伴う人口減少が進む中で、若年層や中年層における心臓突然死も深刻な社会問題となっており、明らかな器質的心疾患が存在しないにもかかわらず突然死を引き起こすブルガダ症候群や早期再分極症候群などの特発性心室細動が報告されています。このような現状を医療従事者だけでなく、一般社会全体で広く情報を共有し、理解を深める環境を整える必要がありますが、未だ十分とは言えません。

これらの不整脈疾患のほとんどは心電図検査によって診断されるため、広く多くの人々と正しい知識を共有し、より多くの人が検査を受ける機会と理解を得ること、さらには心臓血管疾患の予防に向けた生活習慣の改善に必要な正しい理解と行動の変容が求められます。また、より良い医療環境を構築するためには、医療従事者に心臓電気生理学などの心臓病学の基礎から臨床に至るまでの十分な知識や診療技術を習得させるための修練や育成が求められます。つまり、疾患に関する啓蒙や健康診断の受診だけでなく、スマートモニタリングや人工知能を活用した検出・評価、さらに薬物治療やカテーテルアブレーションやデバイスの植込みなどの適切かつ的確な非薬物治療に結び付けることが求められます。そして、新たな診断と治療技術の開発も必要です。

私たちは、これまで大学病院、市中病院や診療所において、不整脈や慢性心不全などの心臓血管疾患に対して、最新の診断と治療に取り組み、地域医療における診療活動に尽力してきました。

今後、こうした診療所から大学病院に至るまでの活動に加え、一般住民に対する予知・検出・予防のための啓蒙活動、非専門医や若手医師への情報周知活動、修学・修練の機会の提供、技術指導や育成活動、さらには新しい診断や治療手技の工夫、機器開発などの研究開発活動を一層推進し、健康寿命の延伸を目指して広く社会に貢献するための継続的な取り組みを行う決意をいたしました。

私たちは所属する病院や診療所などの組織や社会の枠組みを超えて、心臓血管疾患に関する啓蒙、診療、研究を推進し、より良く切れ目のない医療活動を実践し続けます。この活動は営利を目的とするのではなく、公益を目的するために特定非営利活動法人を設立し、より多くの方々に福音をもたらすべく、活動を広げていく所存です。

2 申請に至るまでの経過

令和 7 年 9 月 特定非営利活動法人の設立の検討を始める

令和 7 年 11 月 設立総会を開催

令和 7 年 1 1 月 7 日

NPO 法人心臓電気生理研究機構

設立代表者



小川 正浩